

(6) 思い入れ価値

歴史的景観資源は、そのもの自体の価値に加え、地域に住む人たちが愛着を持って、保全や活用の取り組みをしていくことがきわめて大切です。

市民の働きかけや保存活動が見られるもの、特別な愛称等で親しまれているもの、まちづくりや市民活動のきっかけとなっているもの、地域住民やコミュニティにとって欠くことのできないものや、地域住民の深い愛着が込められているものは、十分価値を有しているといえます。これらは、思い入れ価値として、地域社会の活性化やコミュニティの成立にとって重要な共有資産です。

あらゆる歴史的景観資源には公共性があり、生活の基盤としての価値を持っているといえます。また、歴史的景観資源の用途・機能が社会に与える影響や社会に果たしている役割に着目して評価することも必要です。



北星学園創立百周年記念館

(中央区南4条西17丁目・大正15年(1926年)築)

大正15年建設の元北星女学校女教師館。創立百周年(昭和62年)を記念して、平成元年に構内で移転改修し、創建時の1階ライラック、2、3階からし色に復元された。女子生徒が名付けた「かぼちゃ館」の愛称で親しまれている。

- 市民の愛着がある
- 特別な愛称で親しまれている
- まちづくりや市民活動のきっかけや拠点となっている
- 絵画や写真の題材となっている など



大学村の森横のハンノキ

(東区北28条東4丁目)

ハンノキは、かつてこの辺りの基調植生であった。昭和58年の道路整備で樹木が伐採されようとした時、地元の小学生が市長へ直訴したのをきっかけに残された。地元住民の思いが込められた記念碑的樹木である。



旧小熊邸

(中央区伏見5丁目・昭和2年(1927年)築)

市民らの保存活動の結果、平成9年に移築保存が決まった。専門家・行政・企業との連携により、翌年喫茶店として再生。藻岩山ふもとに豊かな憩い空間が生まれた。また、一連の活動からNPO法人「旧小熊邸倶楽部」も誕生した。



エドウィン・ダン記念館

(南区真駒内泉町1丁目・明治20年(1887年)築)

明治20年建設の旧真駒内種畜牧場事務所。真駒内団地造成に伴い解体予定であったが、地元有志が「エドウィン・ダン顕彰会」を設立し、建物半分を移築し記念館として再生。現在も地元町内会が管理運営している。



苗穂小学校学校記念館

(東区北9条東13丁目・昭和12年(1937年)築)

昭和56年の校舎改築時に、卒業生や地域住民の熱心な働きかけにより保存された木造校舎の一部。2階には教室が残され、資料展示とともに郷土学習の場として活かされている。

安春川 (北区)

国のふるさとの川モデル事業として全国にさきがけ、昭和63～平成3年度に改修整備されて再生。それを機に、多くの地元グループが「安春川を愛する会」を組織して新たな活動を始めた。地域遺産の再生が、まちづくりを広げる種となった。



ぼすとかん

(南区石山2条3丁目・昭和15年(1940年)築)

定鉄旧石切山駅(大正7年)の向いにある旧特定郵便局で、地元産軟石で建設。当初から周辺地域の集会所的存在で、旧駅舎とともに石山のシンボルとして親しまれ、現在もまちづくり活動や集会などに使用されている。